

日本のとりわけ私立大学における寄付金文化の涵養と寄付基金等の資産運用の重要性が叫ばれて久しいが、その運用方法や考えには各大学に濃淡があるのではないだろうか。そこでIFA法人MK3株式会社代表取締役社長の林雅巳氏が、学校法人としては早い段階から積極的に資産運用に取り組む上智大学で、2009年から資産運用の実務に携わっている引間雅史氏にインタビューした同大学の具体的な資産運用の現状について、寄稿してもらった。

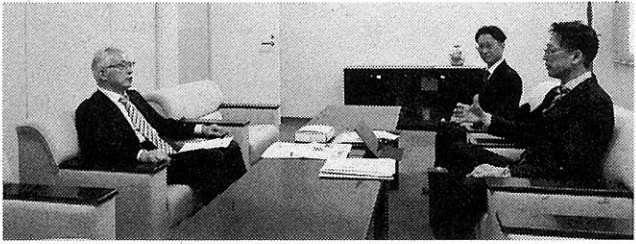
わが国の大学法人の資産運用の現状は、大学経営協会の「第8回大学法人における資産運用状況調査（2020年9月調査）」によると有価証券運用を行っている大学は、国立大学法人で81%、私立大学で78%とあり、私立の中規模及び大規模大学はほとんど有価証券運用を行っている。

有価証券運用を行っている理由は「教育研究事業の支援」、「学生生活の支援（奨学金含む）」、「施設整備の支援」、「基金運用で果実を得る」の順となっている。一方、「有価証券運用を行っていない」と回答した私立大学の理由は「元本割れに対する懸念」、「運用するほどの資金がない」、「運用する担当者がいない又は知識不足」、「内部規程で運用対象となっていない」の順になっている。

有価証券運用を行っている学校法人は少なくないが、目標リターンや目標リスクを設定して、それを達成すべく高度な分散型ポートフォリオ運用を取り入れている大学は少ない。有価証券運用を行っている大学はその果実を教育研究や奨学金、施設整備に役立てているが、有価証券運用をしていない大学は低金利にあえいでおり大学間格差が広がる要因にもなっている。運用するほどの資金がない

学校法人の資産運用

引間氏（左）と林氏（右手前）



この度、聞き手の林



引間雅史（ひきま・まさみ）氏 / 上智大学特任教授・学長特別顧問、学校法人上智学院 経営企画・情報システム・資本

運用担当理事。日興アセットマネジメント代表取締役社長やライオン・キャピタル・アセット・マネジメント（現ア

ライオン・パインスタスク許容度」及び「適切な運用目標」の設定不足や簿価会計によるインカ

ム重視、専門スタッフの不足などを指摘している。を

を含め対応がしっかりしたところ」を選択しており、フ

政府は大学ファンドの取り組みなど大学に対して自立を促し、一部の大学を優遇しようとしてい

が、学校法人の資産運用の手がかりとなる同大学の今期の目標年率リターンとリスク等について聞いた。（2022年12月2日実施）

○目標年率リターンとリスク
「まずは今期の目標年率リターンとリスクについてのお考えをお伺いします。」

「金利上昇やリセッション懸念で株も債券も困難な環境になってきているため、リスク抑制に軸足を置いた基本ポートフォリオG等社会課題解決に寄与するために資産運用を行っている。運用資産は2015年12月末約400億円だったが、現時点では約550億円程度で、中長期資産として運用されている。」

「参考資料、2021年度上智学院事業報告書に「資産運用の状況」より、2021年度の資産運用収益は主に株式ファンド分配金などから約

16.5億円となっており、投資の方針は変わらな

投資案件を中心に増やし、低流動性資産な

投資比率に上限を設定している。本学の建学の理念である「他者のた

大学間の情報共有でより良い大学運営を

「金利上昇やリセッション懸念で株も債券も困難な環境になってきているため、リスク抑制に軸足を置いた基本ポートフォリオG等社会課題解決に寄与するために資産運用を行っている。運用資産は2015年12月末約400億円だったが、現時点では約550億円程度で、中長期資産として運用されている。」

「参考資料、2021年度上智学院事業報告書に「資産運用の状況」より、2021年度の資産運用収益は主に株式ファンド分配金などから約16.5億円となっており、投資の方針は変わらな

投資案件を中心に増やし、低流動性資産な投資比率に上限を設定している。本学の建学の理念である「他者のた

「金利上昇やリセッション懸念で株も債券も困難な環境になってきているため、リスク抑制に軸足を置いた基本ポートフォリオG等社会課題解決に寄与するために資産運用を行っている。運用資産は2015年12月末約400億円だったが、現時点では約550億円程度で、中長期資産として運用されている。」

「参考資料、2021年度上智学院事業報告書に「資産運用の状況」より、2021年度の資産運用収益は主に株式ファンド分配金などから約16.5億円となっており、投資の方針は変わらな

投資案件を中心に増やし、低流動性資産な投資比率に上限を設定している。本学の建学の理念である「他者のた

「金利上昇やリセッション懸念で株も債券も困難な環境になってきているため、リスク抑制に軸足を置いた基本ポートフォリオG等社会課題解決に寄与するために資産運用を行っている。運用資産は2015年12月末約400億円だったが、現時点では約550億円程度で、中長期資産として運用されている。」

「参考資料、2021年度上智学院事業報告書に「資産運用の状況」より、2021年度の資産運用収益は主に株式ファンド分配金などから約16.5億円となっており、投資の方針は変わらな

投資案件を中心に増やし、低流動性資産な投資比率に上限を設定している。本学の建学の理念である「他者のた

「金利上昇やリセッション懸念で株も債券も困難な環境になってきているため、リスク抑制に軸足を置いた基本ポートフォリオG等社会課題解決に寄与するために資産運用を行っている。運用資産は2015年12月末約400億円だったが、現時点では約550億円程度で、中長期資産として運用されている。」

「参考資料、2021年度上智学院事業報告書に「資産運用の状況」より、2021年度の資産運用収益は主に株式ファンド分配金などから約16.5億円となっており、投資の方針は変わらな